

## トイレ診断士達のブログ!! 特選集



今回は東海営業所の呂宋壺乃坂(るそんつぼ・のさか)さんが、トイレ診断士達のブログ内で勝手に連載している「東海通信」の中から、ショッピングセンターでのお話をふたつお送りします!

### ～盗電よりもいけないこと～

おはこんばんにちは、呂宋壺乃坂(るそんつぼ・のさか)です。

定期診断させていただいているお客様先のトイレに盗電防止用コンセントボックスを設置しました。暖房洗浄便座や自動フラッシュバルブのコンセントを抜いて携帯電話等の充電をする不届き者が続出しているそうです。このように洋式大便器の足元にコンセントがあります。



既設のコンセントカバー(シルバー)をまるごと外してしまって、新たに盗電防止用ボックス(白)を設置すると…



これで安心。もう、勝手に抜くことは出来ません。必要に応じて専用の鍵での開閉は可能です。

### ～今度は背もたれを付けました～

東海営業所の呂宋壺乃坂(るそんつぼ・のさか)です。

前回のコンセントカバーに続いて多目的トイレの快適化報告を致します。今回は背もたれ設置の提案をしていたものが実現しました。作業前はこんな感じ。

左右に手すりがあるし、背もたれまで無くて良さうなのに。いやいや…



完成だあ～!と一息ついていると、清掃スタッフの女性からこんな一言が。「うちの主人は要介護で、背もたれが無いとトイレ出来なかったのよ。去年死んじゃったんだけどね。これ、喜ぶ人いっぱいいると思うわ。ありがとね♪」  
いただいた飴ちゃんをなめながら、しみじみと帰る朝でした。

#### トイレ歳時記 9月

9月1日は防災の日です。

非常用トイレの用意はできていますか?東日本大震災の際には、発災後6時間で約7割の人がトイレに行きたくなかったという調査があります。断水などで水が出ないトイレを汚物であふれさせないために、非常用トイレの準備を確認しましょう。

#### 編集後記

今回は「トイレと平成」ということで、30年前からの記憶を辿ってみました。そういえば、「ふるさと創生事業で交付された1億円で豪華な公衆トイレを建設」というニュースもありましたね。昭和から平成になったころの今では考えられないバブルです…。その当時発売されていた小便器がやたらと大きかったのも象徴的なと思いました。あらためてその頃のトイレを考えると、隔世の感がありますね。

#### あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル **0120-57-1110**

**トイレを楽しくする新聞  
かわや版 KAWAYABAN**

2019秋号 Vol.80

# 特集 トイレで平成を振り返る

「平成」という時代が終わり、「令和」へと移り変わりました。平成30年間のトイレにまつわる時代の変化を振り返ってみたいと思います。



## 1 民営化とトイレ改革

### きれいになったトイレ

今でこそ「トイレの中でスマホチェック」は当たり前、なかには「お弁当を食べる」などといった話もあるくらい快適な空間となったトイレですが、30年前といえば、「臭い」「暗い」「汚い」「怖い」「壊れている」の「5Kトイレ」が一般的で、一瞬たりとも長居したくない場所でした。それが現代の快適なトイレに移り変わっていくまでの間、どのようなことが起こっていたのでしょうか。トイレ診断士として感じた社会の出来事や現象を独断でピックアップしてみました。



平成から昭和へさかのぼること約2年、1987年(昭和62年)に国鉄が民営化され、JRが発足しました。それまでは「臭いをたどればトイレの場所がわかる」とまでいわれていた国鉄のトイレですが、JRが真っ先に取り組んだのがそのトイレの改革でした。トイレのリニューアル工事を行い、トイレットペーパーも設置されるようになりました。これが「顧客満足のためにトイレをきれいにする」ということが世の中に知ら

れるようになった最初の出来事だったのではないか。



その後、2005年(平成17年)に高速道路公団が民営化された際にも、トイレの改革に取り組んでいます。清掃方法

の改善や待ち時間を短縮するレイアウトなど、研究に研究を重ねて改善され、「サービスエリアのトイレは本当にきれいになった」という声をいたるところで聞くようになりました。



## 2 便器の変化

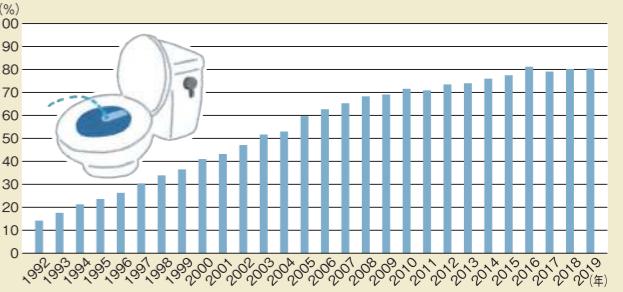
社会だけでなく「便器」自体も、この30年で大きな変化がありました。まず、TOTOのトイレ出荷比率では、和式便器の割合は1990年(平成2年)に18%あったものが、2015年(同27年)には0.7%にまで減少しました。逆に、統計を取り始めた1992年(同4年)に普及率が14.2%だった温水洗浄便座が、2019年(同31年)には80.2%(\*にまで達しました。平成の間に生活必需品になったといえるでしょう。また、便器の洗净水も、平成の初期に販売されていたものは13Lでしたが、現在の最新機種では3.8Lにまで抑えることに成功しています。さらに、便器表面に汚れを付きにくくする技術も進化して、昔よりも汚れにくい便器になっています。

\*経済産業省 主要耐久消費財の普及率の推移

■TOTOにおける洋式便器・和式便器の出荷比率



■温水洗浄便座普及率



## 3 相次いだ大災害

平成を語る上で忘れてはならないのが、地震などの大災害です。95年(平成7年)の阪神・淡路大震災では、多くのトイレが使えなくなり、避難所のトイレは長蛇の列、仮設トイレの和式便器から汚物があふれるといった惨憺たる状況になりました。新潟県中越地震(同16年)、東日本大震災(同23年)、熊本地震(同28年)と大きな災害を経て、被災者の声を反映し、ご年配の方も使いやすい洋式トイレや、安心して使える男女別のトイレの設置、マンホールトイレも利用されるようになってきました。また、災害関連死原因として、避難所の衛生状態悪化による感染症や、トイレが不安で水分を控えたことによるエコノミークラス症候群が一因となっていました。



なっていることも広く知られるようになりました。避難生活では食料や水、医薬品といった物資と共に、衛生的なトイレ環境も大事だということが共通認識になったのではないかでしょうか。しかしながら、避難所の仮設トイレ設置までに平均で3日かかるとも言われる中、2016年(平成28年)の時点で家庭での災害用トイレの備蓄率は16.6%<sup>(※)</sup>に留まっています。この課題は令和に持ち越されることとなりそうです。

※日本トイレ協会災害用トイレ備蓄に関するアンケート調査



阪神・淡路大震災時の仮設トイレ



## 4 広がるバリアフリー

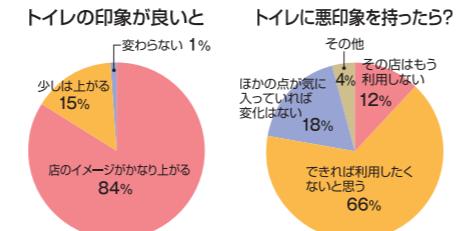
1994年(平成6年)に、劇場やデパートなど公共性の高い建物において、高齢者や障害者、車椅子でも円滑に利用できるように定める通称「ハートビル法」が施行されました。トイレについて定める項目では、車椅子でも利用できる十分な広さの個室を各階ごとに2%以上、オストメイト対応のトイレも各階に1つ以上設置することなどと定められています。2000年(同12年)には公共交通機関でバリアフリーを促進する「交通バリアフリー法」が施行され、2006年(同18年)には二つの法律を統合し、改正・拡充した「バリアフリー新法」が施行されました。昔は車椅子用トイレも珍しかったうえに、あっても倉庫になっていたり鍵が掛かっていたりしたものでしたが、今ではどこへ行っても車椅子で利用できるトイレが当たり前になりました。



### まとめ 今も昔も変わらないこと

平成の30年間でトイレや、トイレに対する意識は変わってきました。しかし、今も昔も変わらないことがあります。トイレに関するさまざまな意識調査ではほぼ共通していることは、約8割の人が「トイレがきれいだとその施設や店舗の印象が良くなる」「汚いとその施設や店舗をもう利用たくない」と答えていることです。調査した時期や調査機関が違ってもこの点はほぼ一定しています。今も昔もみんな汚いトイレよりきれいなトイレが好きということ。それはこの先も変わらないのではないかでしょうか。

### 飲食店トイレに関する調査



調査概要(出典:日経レストラン 2002年4月号)  
調査方法:日経レストランONLINEで行ったアンケート調査  
調査時期:2002年3月  
有効回答数:174名(男性111人・女性63人)

## 5 トイレに対する意識の変化

トイレ掃除といえば、昔は“罰としてやらされていたもの”だったのが、イエローハットの創業者の鍵山秀三郎氏の「トイレ掃除で心を磨く」といった提唱があり、トイレ掃除が「成功の秘訣」「人間的成长」といったイメージで語られるようになりました。そうしたトイレへのイメージの変化と、実際にトイレがきれいになった



全国初となるトイレのネーミングライツとなった渋谷区役所前トイレ診断士の廁堂

ことも相まって、地方公共団体がトイレのネーミングライツ(命名権)を売却するという動きが出てきました。それまでのネーミングライツは、スポーツ施設や公共施設が中心でしたが、2009年(平成21年)渋谷区が全国に先駆けてトイレのネーミングライツの売却に乗り出しました。その成功を受けて、トイレのネーミングライツは他の自治体にも広がっています。

2011年(同23年)、「トイレにはそれはきれいな女神様がいるんやで」と歌った植村花菜さんの「トイレの神様」が大ヒットしたのも、そういう時代の空気が反映されていたのではないかでしょうか。

## 災害用 緊急トイレセット

9月1日は防災の日です。  
災害用トイレの準備はできていますか?

### 避難所・事業所向け

災害時・非常時に上下水道が不全になってしまっても、便器が壊れていなければ、安心・衛生的なトイレが確保できるセットです。便器に便袋を被せて使用。使用後は便袋の口をしっかりと結んで可燃ゴミとして処理できます。



▲洋式便器に便袋をセット



簡易トイレ  
240枚

例えば…16人が1日5回、3日間の使用が可能です。

▲「日本トイレ大賞 防災担当大臣賞」受賞メーカーの製品です。



▲便袋



▲ご家庭用や小規模の施設用には15枚入りをどうぞ



使い方は動画をご覧ください

詳しくはお近くのアメニティネットワーク加盟店まで

## 皆さん「補助犬トイレ」をご存知ですか?

Toilet Topics



「補助犬」とは「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」のことを指します。近年、空港やターミナル駅、役所、劇場、ホテルなどで補助犬トイレが増えてきています。補助犬トイレには決まった規格などは無く、屋内屋外問わず設置されています。汚物流しシンクや床を流せるシャワーなどがついていたり、床面が砂利になっていたり、ボタンを押すと排泄物を水で流せる仕組みになっているところもあります。

補助犬の排泄はしっかりと訓練されています。補助犬ユーザーがタイミングを把握し、指示を出してから排泄させています。通常、補助犬トイレが無いところでは、屋外であれば、駐車場の隅や植え込みなどで、屋内であれば多目的トイレなどで、ペットシーツやワンツーベルトと呼ばれる器具を用いて排泄しています。



ワンツーベルト。レジ袋をベルトで補助犬に固定して、排泄物をキャッチできるようになっています。写真提供:公益財団法人日本補助犬協会

補助犬トイレがあれば長時間の外出でも人目を気にせず安心して補助犬に排泄させることができます。また、汚物の処理に関しては補助犬ユーザーの負担軽減になります。公益財団法人日本補助犬協会の安枝直人さんによると、「一般的の方が補助犬トイレを見かけた時に気をつけることを伺ったところ、「補助犬トイレは補助犬のためのトイレなので一般的のペットは使用しないでください。もし補助犬ユーザーから援助の依頼があった場合は応じていただけるとありがたいです。」とのことです。

人間社会の一員として立派に役目を果たしてくれている補助犬たち、外出先でもお互い気持ちよく行動ができるべきですね。



成田空港にある補助犬トイレ。こちらの補助犬トイレでは、ペットシーツが常備されており、汚物は汚物流しに、ペットシーツはゴミ箱に捨てられるようになっています。写真提供:公益財団法人日本補助犬協会

### 補助犬トイレのあるところ(一例)

- ◎JRさいたま新都心駅
- ◎成田空港
- ◎羽田空港
- ◎京王プラザホテル
- ◎大分駅前
- ◎世田谷区役所
- ◎豊島区役所
- ◎東京芸術劇場
- ◎新潟市総合福祉会館

